

PSアワードにエントリーしよう！
エントリーシート記入のポイント・受賞のメリット



自己紹介

相田合同工場と「鋏」



鋏の専門鍛冶
新潟県三条市で創業
89年の社歴(創業昭和5年/1930年)

製造品目4000余(2018年現在)
全国の多種多様なオーダーに応える



少量多品種製造の工程を支える職
人の技術力
各地の先人たちの技を再現

製品安全に取り組むきっかけとPSアワード応募の動機

弊社の【製品安全対策に取り組むきっかけ】は以下の通りです

1. 販売店の商品知識不足が原因の接客ミスによるクレームの増加
(問い合わせ等窓口業務の負担増加)
 2. 販売店の商品管理上のトラブルの増加
(返品等商品管理業務の負担増加)
 3. 消費者、使用者の商品知識不足と思える誤購入・誤使用の増加懸念
(具体的な製品クレームへの移行懸念)
- ★弊社の情報発信の少なさも関係しているのでは？

弊社の【PSアワードエントリーの動機】は以下の通りです

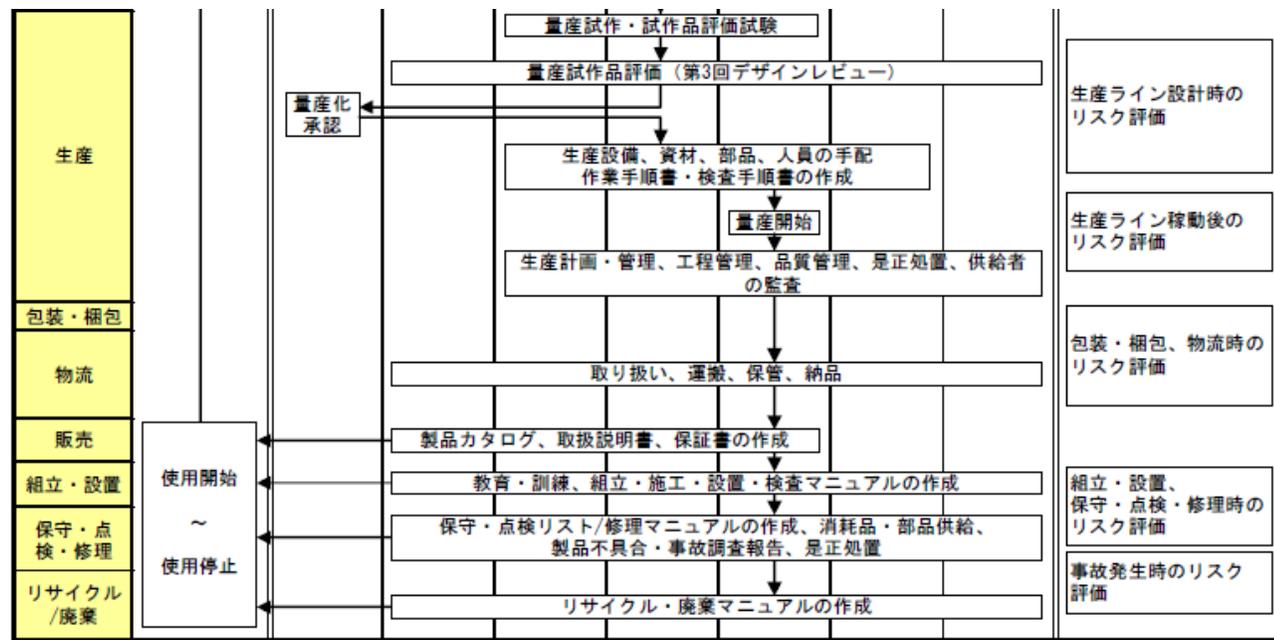
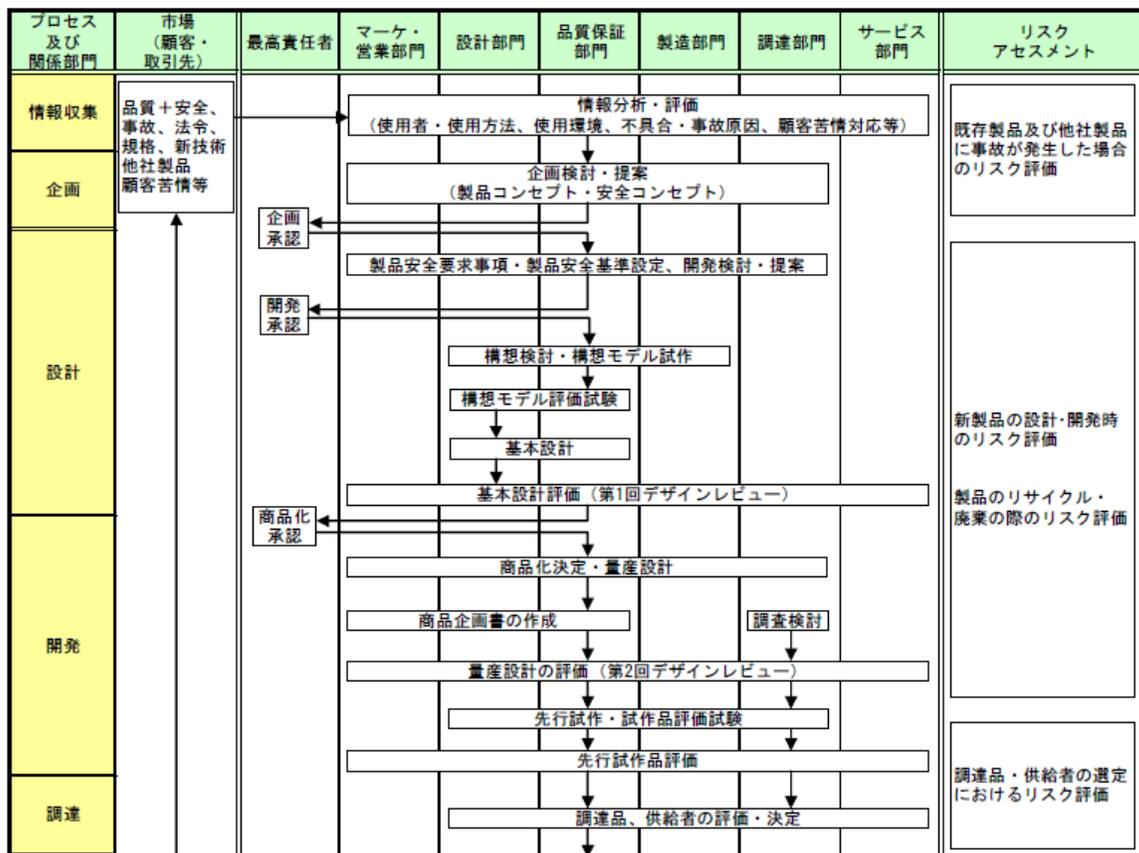
1. 自社の製品安全の取組みについて客観的評価が欲しかった
2. 受賞企業に業界や競合先企業がなかった
(業界での製品安全リーディングカンパニーの位置が取れると判断した)

エントリーシート記入の10のポイント

1. 製品安全的視点で棚卸した内容を『4つの視点』に振り分ける。
2. 棚卸した内容を取捨選択せず全て記入する。
3. 『4つの視点』に振り分けの難しいものは、説明者が説明しやすい視点に記入する。
決めかねる場合や強調したい場合は複数視点に記入する。
4. 材料証明等エビデンスの取れるものは準備しておき、必要に応じて添付する。
5. 自社、業界等特異なケースはわかりやすく記入し、必要に応じて資料を準備する。
6. 自社の製品安全の取組みが、市場における規模感や影響力があるのかを示せる場合は記入する。
7. 文章で説明しにくい場合は、フロー図等で説明を補う。
8. 一次審査は書類ですので、とにかく記入できるものは自己判断で削除せず記入する。
9. 二次審査(プレゼンテーション)を意識して、自社が最も訴えたい製品安全対策の記入内容を厚くする。
10. 虚偽の内容は絶対に記載しない。(三次審査は現地調査)

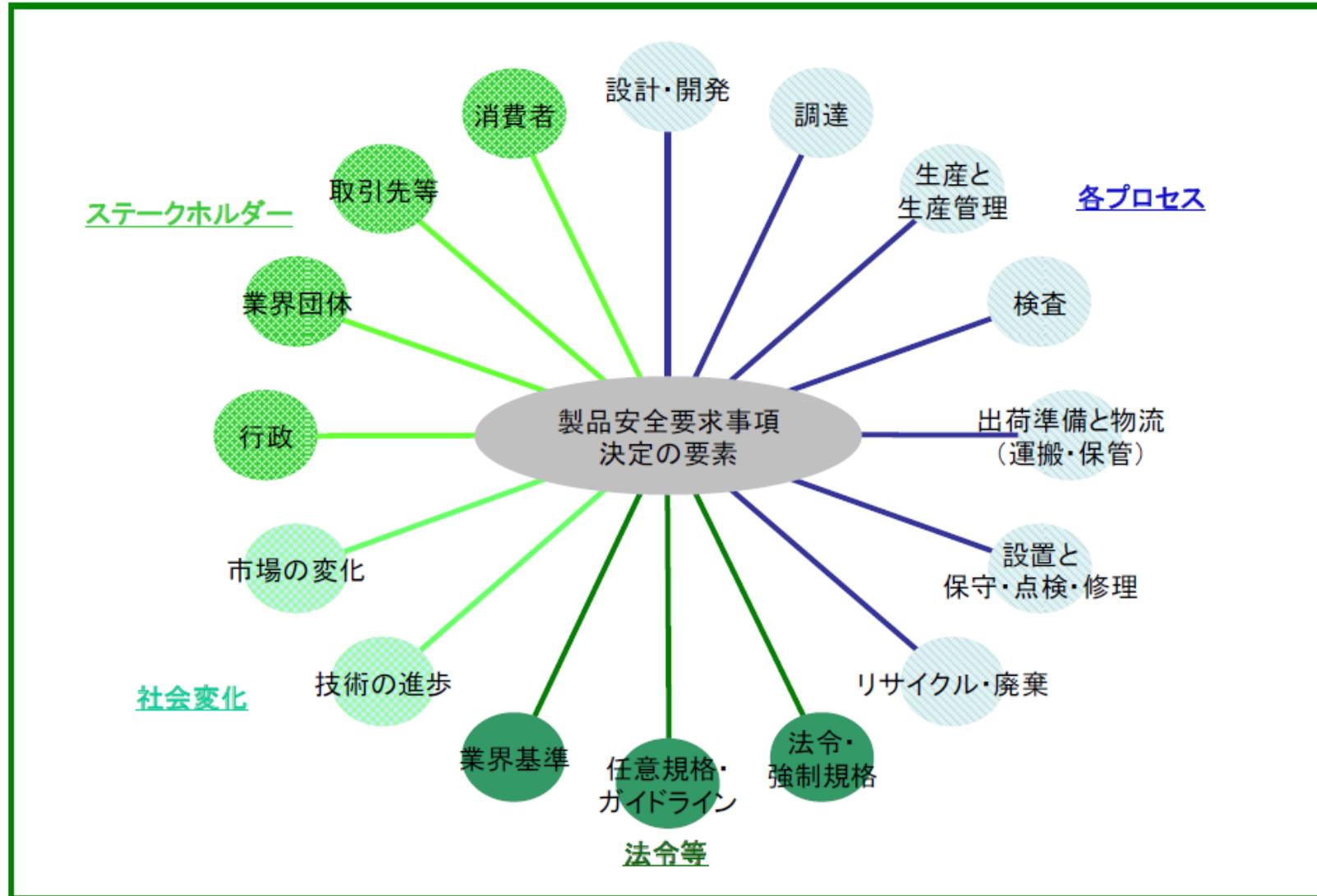
製品安全的視点で業務の棚卸とは？

製品安全に関する業務プロセスフロー図

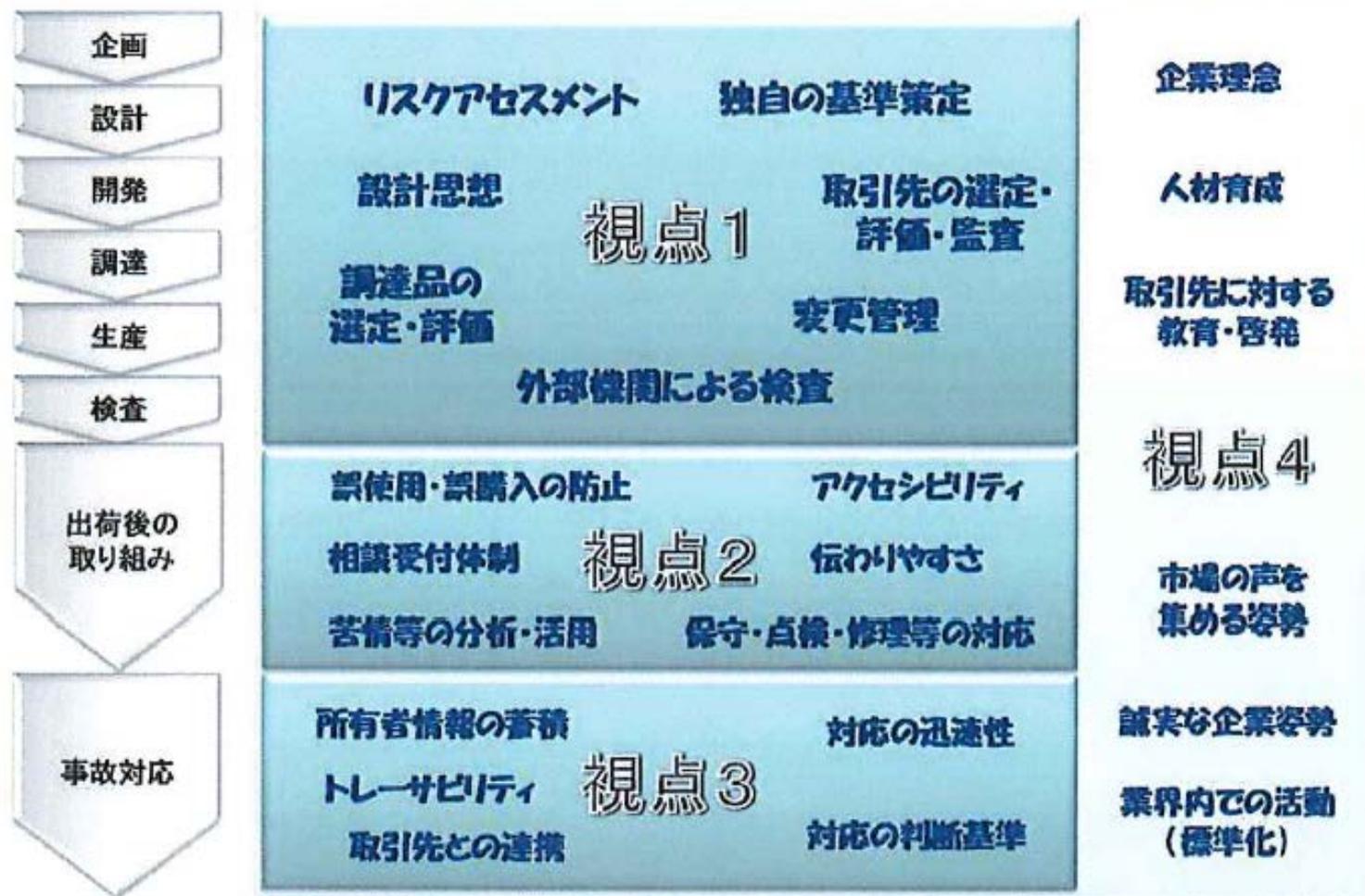


【製品安全に関する事業者ハンドブック】より

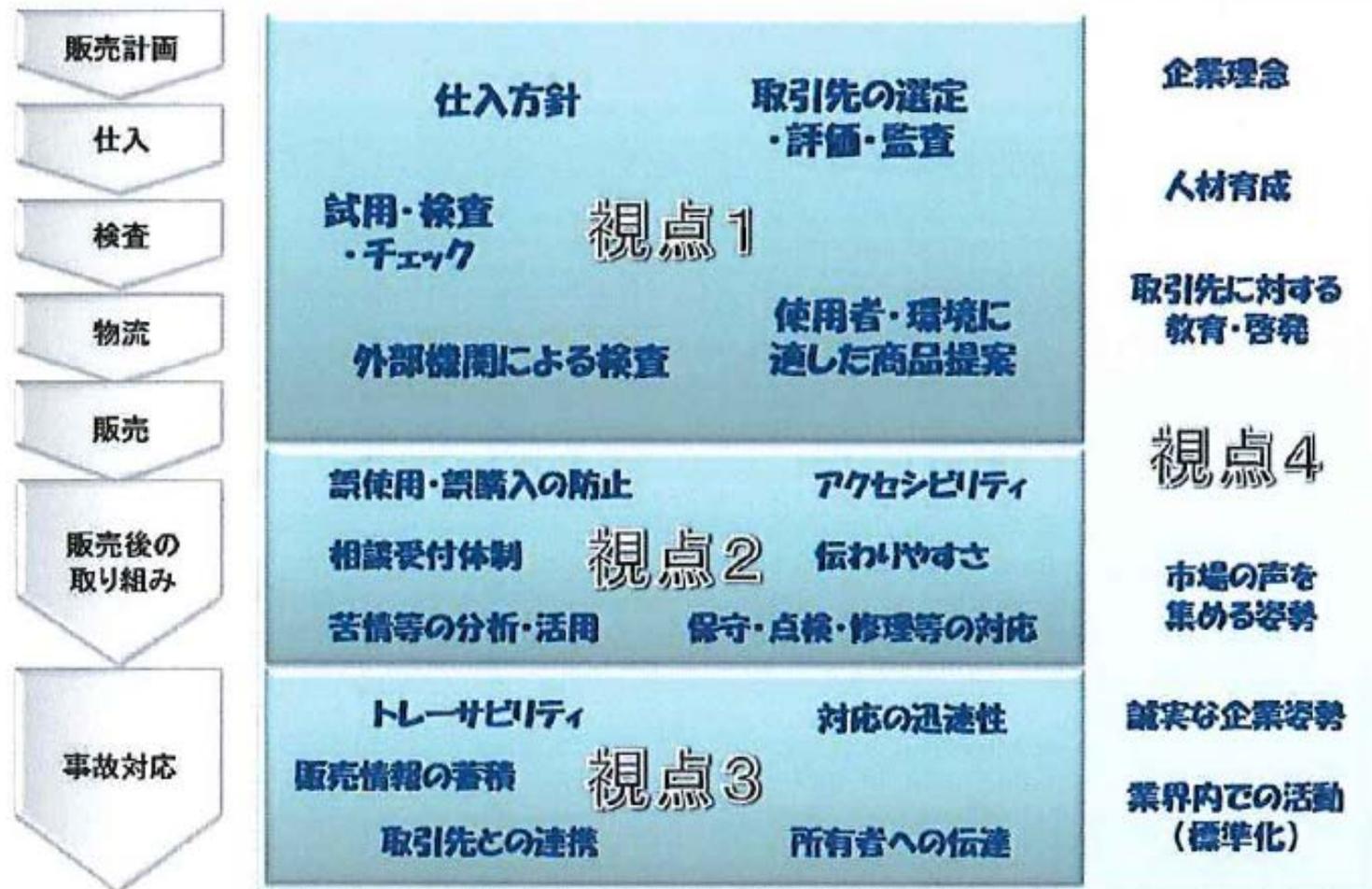
製品安全要求事項決定の要素



審査基準と業務プロセスの関係イメージ (製造・輸入 事業者部門)



審査基準と業務プロセスの関係イメージ (小売販売 事業者部門)



製品安全的視点で棚卸した内容を『4つの視点』に振り分け

- 視点1 安全な製品を製造するための取組み
 - (1)製品の企画・開発・設計に関する取組み
 - (2)製品の製造に関する取組み
 - (3)安全性の試験・検査・評価

- 視点2 製品を安全に使用してもらうための取組み
 - (1)安全に関わる情報の提供・発信
 - (2)製品の使用実態や不具合・事故情報の把握

- 視点3 出荷後に安全上の問題が判明した際の実取組み
 - (1)事前の備え、平常時の取組み
 - (2)安全上の問題判明時の対応

- 視点4 製品安全文化構築への取組み
 - (1)製品安全文化を育む仕組み、体制
 - (2)人材育成、知識・技術継承
 - (3)取引先の活動促進・社外での取組み

それでは、弊社の取組みをエントリーシートに順じて見ていただきます

4つの視点1-(1)-②

「鍬そのものの安全性」を担保した鍬の開発

- 「鍬そのものの安全性」を担保するために、策定した製造上の製品安全自主基準を、製品に反映させる取組み。

②作業量別単機能鍬の開発

ユーザーの作業量(耕作面積)にもっとも有効と思われる品質(材料、加工法、メンテナンス法など)を弊社から提案し、ワークショップやモニタリングで実使用し、作業頻度、作業時間と経年劣化から内在するリスクを洗い出し、リスクを低減させた鍬の開発。

例：土を動かす同じ用途の鍬

* 家の庭など数坪程度の広くない畑で作業する人向け。



* 貸農園などの自宅と別に土地を借りて家庭菜園を楽しむ中級者向け。



4つの視点1-(1)-③

「鍬そのものの安全性」を担保した鍬の開発

- 「鍬そのものの安全性」を担保するために、策定した製造上の製品安全自主基準を、製品に反映させる取組み。

③ 使用者別単機能鍬の開発(カスタムメイド鍬の開発)

ユーザーの特性(性別、年齢、体型、使用時のくせなど)にもっとも有効と思われる設定(大きさ、重量、柄の長さ、柄の角度など)をユーザーとともに検討し、既製品に内在するリスクを洗い出し、カスタムメイドによりユーザーとの親和性を高めることでリスクを低減した鍬の開発。



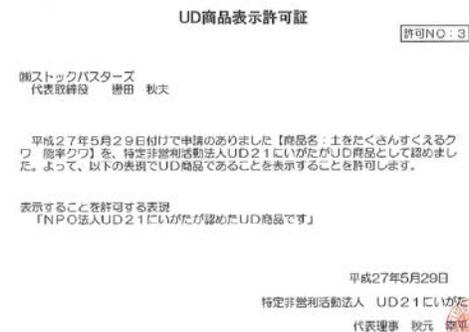
4つの視点1-(1)-④、⑤

「鍬そのものの安全性」を担保した鍬の開発

- 「鍬そのものの安全性」を担保するために、策定した製造上の製品安全自主基準を、製品に反映させる取組み。

④使用時以外の安全性を確保するために刃部保護具を開発した。また、保管時、移動時の安全性を確保するための収納バッグを開発した。

⑤新たな安全性の確保の観点から「ユニバーサルデザイン」の認定を受ける鍬を開発した。認定必須条件に安全性を求められている。(取引先OEMとして提供。「NPO法人UD21にいがた」が認定)

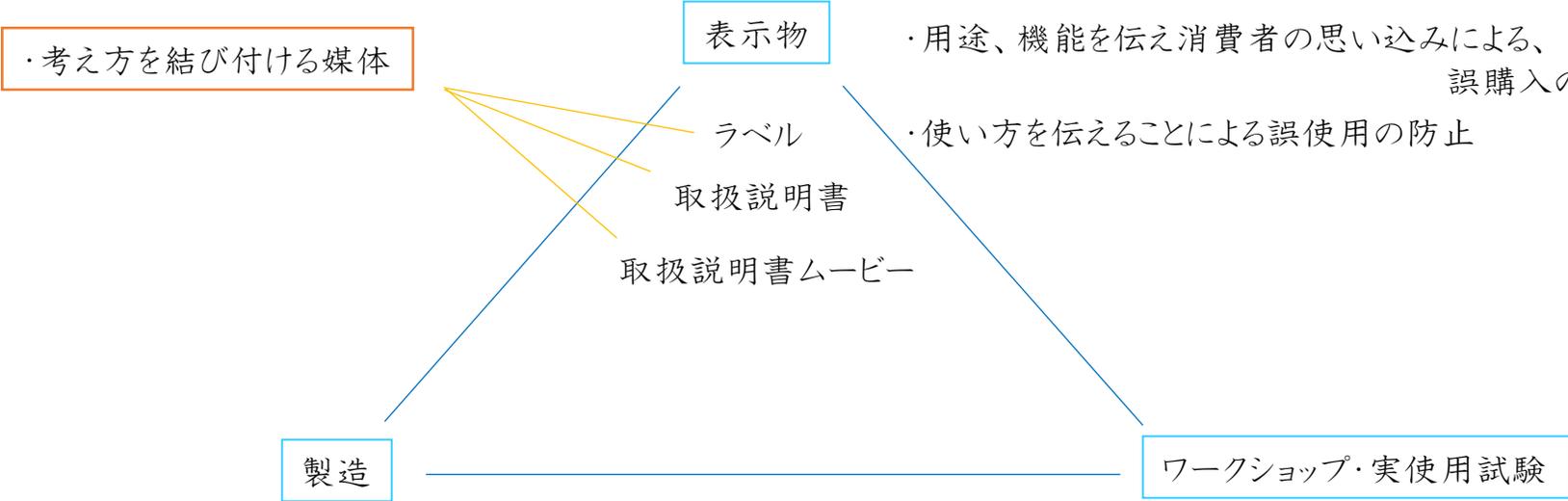


4つの視点1-(2)-①

鋸製造の製品安全自主基準の策定

フロー図として
資料提出

製品安全の考え方 表示とワークショップと製造の相関関係



- ・用途、機能を伝え消費者の思い込みによる、誤購入の防止
- ・使い方を伝えることによる誤使用の防止

- ・リスクに対す加工上の軽減措置の検討
- ・設計から考える安全な商品の開発
- ・消費者の意見、要望を取り入れた設計・製造

- ・製品設計の確認
- ・説明書、ラベル表示と製品の整合性確認
- ・ユーザーの意見、要望等ヒアリング
- ・製品設定とユーザーの使用方法モニタリング

弊社では正しい使い方を伝えることに重点を置いている

4つの視点1-(2)-①

鋸製造の製品安全自主基準の策定

● ユーザーコミュニケーションから導き出したリスクポイントと実際のクレームや商品問合せと突き合わせたリスク評価を回避するための、製造上の製品安全自主基準の策定。

* リスクごとの材料・資材調達時、自社工場加工時、外注工場加工時、組み立て時、出荷時で基準を策定

自社基準の考え方

製造時の各作業工程等で製品に内在リスクに対し、リスクを回避するための取り組み

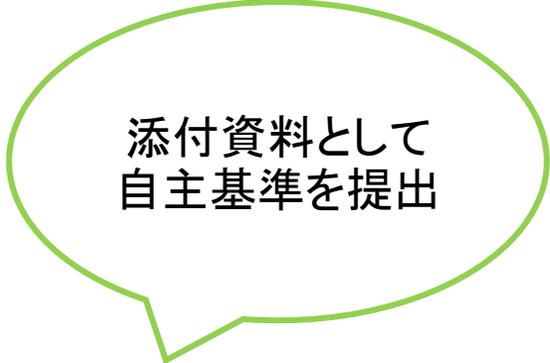
過去のクレーム発生案件・社内勉強会・ワークショップ

製品クレームとなると断定される事柄をリストアップする。

リストアップ例

- 使っていたらコミがはずれた。
- 使っていたら刃が曲がった。
- 使っていたら柄が折れた

リストアップされたリスクを回避するために材料・資材仕入れ時、自社工場製造時、外注工場製造時、自社工場組み立て・出荷時で考えリスクを回避する。



コミがはずれたクレームに対する改善方法(例)

	調達時	自社加工時	外注加工時	組み立て時	出荷時
基準	コミ材料は、厚み4mm 長さ70mm 幅20mm以上の軟鉄を使用する	溶接機の電流を130A以上、電圧を20V以上に設定し作業を行う。作業を行う際には製品軸を使いずれが無いように作業をする。作業完了後接着部の隙間が無い目視確認を行う。開先を取り溶接接合力を強める。	外注加工品を検品する際に接着部の隙間が無い目視確認をする。	木部接合の際に角度が変わっていないか目視確認を行う	梱包による接合部負担が掛からないように梱包作業を行う。
注意事項	基準値以下の材料を使うと、はずれるなどの製品欠陥が発生するため注意する。素材が違う場合柄との接合ができないため軟鉄を使用する	基準値よりおおきく数値設定が違う場合接合力が弱くはずれてしまう可能性がある。開先を取らないと接合力が弱くはずれてしまう可能性がある。	製品軸を使い確認をしないと角度のずれなどが発生している場合があるので十分に確認をする。	角度が変わっている場合は接合力が弱い可能性があるため再度工場に戻し確認をしてもらう。	接合部に負荷が掛かりすぎる梱包を行うと配送時に商品破損の恐れがあるために注意をする。

4つの視点1-(3)-①

鍬そのものの安全性とは何かの研究

●製造者による実使用試験の実施

*製造者が実使用することにより、商品設定や加工方法の適正性の確認をするとともに、
内在するリスクに対して加工上での軽減措置を検討

平成27年5月9日実施の実使用試験



クサビ抜け軽減のための
加工法の検討

木柄滑り止めの
形状検討



エビデンスとして
二次プレゼン用に
画像を、
三次現調用に現物
を準備

4つの視点1-(3)-②

鍬そのものの安全性とは何かの研究

● 製造者によるユーザーとの実使用試験の実施

* 製造者が意図した使用上の設定とユーザーの実使用から

設定外の使用方法の洗い出し

* 使用方法から加工上の改善措置や表示上の改善措置の検討

平成27年3月28日実施のユーザーとの実使用試験



わかりやすいイラストの追加



エビデンスとして、
三次現調時に変更ラベルを資料提出

ユーザーの使用
方法から改善され
た表示物
(商品ラベル)

4つの視点2-(1)-①、②

お客様とのコミュニケーション ツールの開発

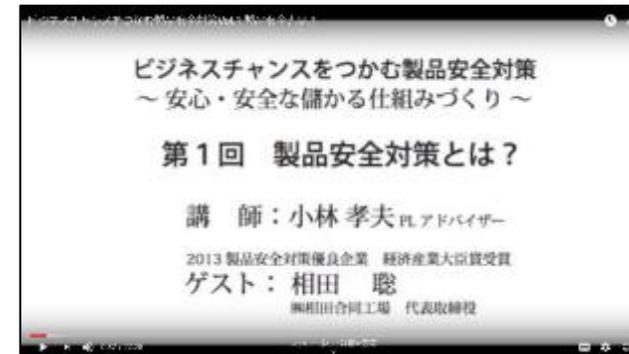
- 取扱説明書ムービーの作成
- 製品安全対策情報のインターネットTVを活用した情報発信

取扱説明書ムービー



紙媒体では伝えにくい使用方法やメンテナンス方法をわかりやすく伝える

インターネットTVでの情報発信



製品安全情報や弊社の取組み、市場対応時の情報発信

4つの視点2-(1)-③、2-(2)-①

お客様とのコミュニケーション 現場への活用

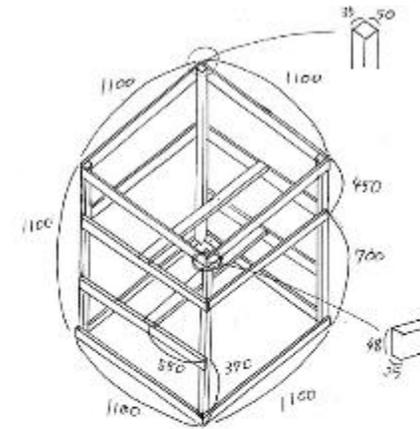
- BtoBワークショップの開催
- 各地開催のワークショップでの使用実態の把握
- BtoBワークショップや店舗訪問等を通じ、商品流通上の安全確保や販売時の商品展示上の安全の確保に努めている

4つの視点の
2項目にまた
がる案件

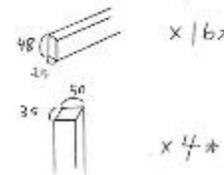
両方に記載

2014年から2015年までの各地開催ワークショップ及び使用実態調査

2015/09/05	鋤の選び方・使い方ワークショップ in 三条市 旧下田地区中浦農場
2015/07/10	鋤の選び方・使い方ワークショップ in 須戸工場
2015/07/04	三条鍛冶学会 親子体験教室ワークショップ in 三条市 旧下田地区中浦農場
2015/03/28	鋤の選び方・使い方ワークショップ in 須戸工場
2014/10/19	鋤の選び方・使い方ワークショップ in 愛知県 ノーマ農園
2014/09/13	鋤の選び方・使い方ワークショップ in 千葉県 いちかわメディカル & ファーム
2014/08/22	鋤の選び方・使い方ワークショップ in 三条市 旧下田地区中浦農場
2014/07/17	製品安全対策講座 in 須戸工場
2014/06/21	鋤の選び方・使い方ワークショップ in 福島県 永井のくわ
2014/04/12	鋤の選び方・使い方ワークショップ in 須戸工場



ホームセンターに提案した鋤専用什器



4つの視点3-(1)-①

取引先へ向けた取り組み

●無印販売の基本的廃止

製品の販売先、販売ルートを特定するために、長い商慣習の中で続いている無印販売を基本的に廃止し、商品ラベル、刻印等で商品の特定を容易にする取り組みを行っている。



抜き印・刻印

* 出荷商品の約90%を両方またはいずれかで対応

4つの視点4-(1)-①、4-(2)-①、4-(3)-①

製品安全対策を育む仕組み態勢作り

製品安全対策の知識を有する人材を育成し、各業務プロセスで各人が判断対応できる社内態勢を構築している。

●人材育成、知識、技術継承

- ・取扱説明書の完全内製化に移行する為、製品の実使用による社内勉強会を定期的で開催。
- ・BtoBワークショップ、BtoCワークショップにも各業務プロセスを担当する社員を出席させ、ステークホルダーとの情報を共有させている。

4つの視点の3項目に
またがる案件

3項目に記載



弊社工場長との実使用試験



同業者とのBtoBワークショップ



積極的な交流事業の実施

4つの視点4-(2)-②

社員のスキルアップ

製品安全対策の知識を有する人材を育成し、各業務プロセスで各人が判断対応できる社内態勢を構築している。

● 全社を上げてPL検定にチャレンジ！



新入社員・パート社員が新たに3名が受験。

役員、工場の職人、事務員など職種男女を問わず、
22才の新入社員から70才のベテラン職人まで。
自分のためにも会社のためにも、
製品も取扱説明書もみんなで責任を持って作ろう！

社員16名中、三級9名、二級2名取得

(平成30年9月現在)

4つの視点4-(3)-①、②、③、④

取引先・社外へ向けた取り組み

- 取引先に向けた製品安全対策セミナー、BtoBワークショップの開催。
- 新潟県果樹振興協会での「鍬の選び方・使い方」の講演会に講師で参加。
- 新潟県三条地域振興局等主催「夢ちいき県央塾」にて、製品安全対策を踏まえた講演会に講師で参加
- 埼玉県三芳町より依頼を受け、農業体験事業の中で「鍬の選び方・使い方ワークショップ」を実施。

三芳町イベント



夢ちいき県央塾



4つの視点4-(3)-⑤、⑥

業界へ向けた取り組み

- 三条市主催事業にて平成26年『日本鍛冶学会第三回大会』を開催。
「ビジネスチャンスをつくる製品安全対策」をテーマに基調講演、各刃物産地連携による「道具の選び方・使い方」ワークショップ、パネルディスカッションを企画、運営、講師で参加。
- 平成27年『日本鍛冶学会第四回事業』親子体験教室「道具の選び方・使い方ワークショップ」に講師として参加



4つの視点4-(3)-⑦

他者との連携範囲の拡大

● チーム製品安全プロジェクト(チームSAP)の設立

地元産地のステークホルダーに製品安全対策を推進、普及啓発するために、弊社の製品安全態勢構築に関わりのあるお取引先にお声がけをし、社外の製品安全対策推進チームを結成し活動している。(チーム製品安全プロジェクト)

活動内容は、製品安全対策セミナーの開催、製品安全情報の発信、製品安全対策個別案件の相談など。

安心・安全な儲かる仕組みづくりを提案する 製品安全対策のプロ集団

Team SAP

Product Safety Project

製品安全プロジェクトチーム

言いたくありませんが… ステークホルダーへの製品安全対策を普及啓発する上で業務リスクを軽減することが必要になりました。

4つの視点4-(4)特記すべき事項－①、②、③、④

製品安全対策優良企業表彰受賞企業との連携

- 一般財団法人大阪デザインセンター主催「製品安全カンファレンス」に社長が講師で参加。製品安全対策優良企業表彰受賞企業が多数参加。
- 三条金物卸商協同組合、協同組合三条工業会主催、「第一回製品安全セミナー」に、株式会社コシダアート正木専務様からご講演をいただく。
- 三条金物卸商協同組合、協同組合三条工業会主催、「第二回製品安全セミナー」に、株式会社ベルーナ企画本部制作室 染谷知孝様からご講演をいただく。
- 製品安全対策優良企業表彰審査委員高杉和徳様より、日本鍛冶学会第三回大会及び日本鍛冶学会事業「製品安全セミナー」にご講演いただいた。



【製品安全対策の実践】

メリットはあるの？

- 「製品安全」から「各業務」へフィードバック！



弊社鋏ギャラリー

製品安全対策が会社にも与える影響・効果①

社員のスキルアップ

私ども零細企業において、製品安全対策の最大のメリットは

社員のスキルアップです！

企業活動のあらゆる人的部分が滑らかになります

製品安全対策が会社にも与える影響・効果②

お客様との新たな関係づくり

ワークショップなど「リスクアセスメント」の仕組み作りは、
作り手と使い手の新たな関係を創造していきます。

新たな関係の創造はBtoC、BtoBの別を問わず
ビジネスチャンスを創出していきます。



BtoC向け
ワークショップ



BtoB向け
商品開発

製品安全対策が会社にも与える影響・効果③

製品安全対策・・・販売につなげる可能性

取説添付の効用は？

お客様に対するメリット

- ・正しい使用方法、使用用途がわかる。
- ・保証期間の確認もできる。

販売担当者様に対するメリット

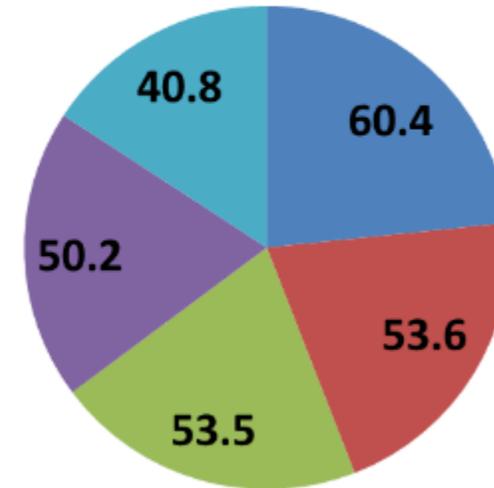
- ・商品の用途・機能が事前に確認でき
販売ツールとしての活用が期待できる。

20代～60代までの購入ポイント調べ

平成22年4月21日
経済産業省調査

20～60代男女TOP5

- 1位 信頼できる
- 2位 安心できる
- 3位 低価格
- 4位 安全な
- 5位 日本製



グラフは平成22年4月21日
経済産業省調査から引用

商品を選ぶときの

選択ポイントになる！

結果売り上げの増加につながる

ご清聴ありがとうございました

是非、エントリーしてください！

